

関西  
ステンレス

# 現物最優先で裏値加算の動き

(大阪) 関西地区のステンレススクラップ相場は上昇基調。先週に中部地区の特殊鋼ミルが $\approx$ 10円の正式値上げを行ったことを端緒に、輸出大手及び国内直納筋の間に裏値を加算する動きが広がり、市中にもひとまず5円の値上げが浸透しつつある。中部地区特殊鋼ミルの値上げは陥没価格の修正という側面が強かったが、結果的に市場の過熱感をさらに増す格好となった。

19日から中部地区の特殊鋼ミルは10円の正式値上げを行い、関東の専業大手も23日から同調。国内ミル各社の炉前ベース価格は185円見当となった。ただ、以前より炉前価格は形骸化しており、実勢買値は200円前後になったとされる。先行して高値が聞かれる輸出大手の買値や西日本地区ミルの購入価格を意識したもので、ある商社筋は「後追いでの陥没価格修正の意味合いが強い」と指摘する。しかし、他地区より過熱感の強い関西地区の市場では、先週末から今週にかけて更なる上乘せ価格の提示が台頭。現物確保を最優先する対応が一段と増したと言える。

韓国向け輸出大手のSUS304新切れの表面上の仕切

り値は175~180円見当で変わらすが、先週末から今週にかけて個別対応による裏値に5~10円がた加算する動きが伝わった。足元では大阪の拠点でまとまった数量の船積みを行っているほか、先行きの在庫確保の観点から積極的な集荷姿勢は今後も継続していく見込みだ。

専業・兼業問屋筋の仕切り値も表面上165~175円見当で、ジリ高基調が続いている。ある問屋筋は「現状は市中主導で相場が上昇している。高値を追わざるを得ない部分がある」と漏らす。

LMEニッケル・ステンレススクラップ相場推移

	LMEニッケル相場 (月平均) \$/MT	LME Ni在庫 (期末/t)	ASIA・SABOT \$/MT	フェロクロム相場 高炭素品・¢/LB	為替相場 (TTS)
2019年平均・合計	13,898	150,690	1,268	117.50	110.08
2020年平均・合計	13,773	246,708	1,198	118.75	107.82
2021年1月	17,848	248,886	1,510	125.50	104.69
2月	18,568	251,130	1,540	125.50	106.37
3月	16,461	260,244	1,480	125.50	109.63
4月	16,481	262,044	1,480	164.00	110.14
5月	17,606	247,494	1,540	164.00	110.20
6月	17,943	232,476	1,620	164.00	111.13
7月	18,817	214,632	1,660	164.00	111.31
8月	19,174	197,298	1,710	164.00	110.83

※8月は23日までの平均値

## LMEニッケル価格 再び1万9千ドル試す展開

ステンレススクラップの価格指標であるLMEニッケル相場(セツルメント)は現地23日、前日比326ドル高の1万8895ドルに上昇した。米国の金融緩和と縮小観測やデルタ株の感染拡大に伴う需要懸念で先週は計1,000ドル以上の下げ幅となったが、足元は買い戻しの

動きが優勢で再び1万9千ドル台が視野に入る展開だ。

また、指定在庫も現地18日から20万ト割れが続いており、需要の高まりが意識される。目先は27日の講演で米連邦準備制度理事会(FRB)パウエル議長が金融緩和縮小の開始時期に言及するかが焦点だ。

## 富士興産、1面タイプの放射線検知器導入 安全管理体制を強化

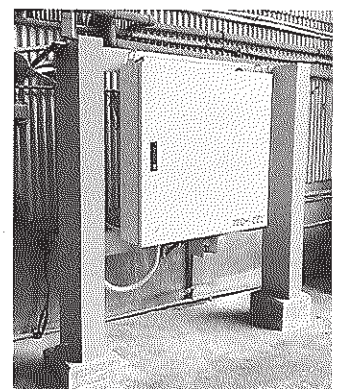
(大阪) レアメタルリサイクル事業を展開する富士興産(本社=大阪市浪速区、赤嶺和俊社長)は大正工場・倉庫(大阪市大正区)に設置式でテック・デル製放射線検知器(販売店=ダイトク)を新たに導入、8月から本格稼働を開始している。

今回、導入したのは1面タイプの「TDR-245D」。検出器と低雑音光電子増倍管の組み合わせで、他社製品と比べて高感度で放射線を検出する。赤嶺社長は「原料を入れたフレコンやドラム缶をフォークリフトや天井クレーンで吊り上げ、前面にかざすことで簡単に漏れなく放射線源をチェックでき、入出荷時の検査業務が効率化される」と話す。

富士興産は従来、放射線測定を携帯型測定器で行っていたが、今後は併用しながら安全管理に努めていく方針だ。赤嶺社長は「お取引頂いている国内ステンレスメーカーで使用されている同じ機械メーカーの放射線検知器を導入した。万全な管理体制で整合性の向上

を図っていければと思う。今後も国内ステンレスメーカーの指定問屋として、品質重視の要望にお応えしつつ、一層の安全管理体制の強化に注力していきたい」と意気込みを語る。

大正工場・倉庫はレアメタルなどの選別作業、検収、加工拠点になり、



導入した放射線検知器

様々な設備を完備している。5月に働きやすい職場環境作りの一環として、社員休憩室の全面リフォームを行い、また脱炭素への取り組みとして、当月から10月末の完成に向けて、屋根の遮熱工事と太陽光パネルの設置工事に着手していて、再生可能エネルギーの導入を行う。